

[果樹部門]

4. 「さきがけはくとう」の摘果における留意点

[要約]

「さきがけはくとう」は、葉芽数が多いことから、仕上げ摘果時に早生慣行（16 葉芽/果）よりも多い1果当たり 20 葉芽程度となるように摘果程度を強めることで、生理障害の増加を伴わずに果実肥大を促進できる。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県オリジナル早生品種である「さきがけはくとう」は、「日川白鳳」よりやや早熟で着色しにくく、食味・外観が優れる。しかしながら、葉芽数が多い特徴があることから、早生慣行程度で摘果すると果実が小さい。そこで、「さきがけはくとう」の摘果時における摘果程度を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「さきがけはくとう」は「清水白桃」に比べて結果枝の長さ当たりの葉芽数が多い（表1）。
2. 摘果の方法として、予備摘果時に1果当たり 10 葉芽、仕上げ摘果時に1果当たり 20 葉芽に早生慣行と比べて葉果比を高めると、果実肥大を促進でき、果実の小玉果比率が減少する（表2、表3）。
3. 1果当たり 20 葉芽となるように摘果すると、核割れ果や生理的落果は少ない。（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 葉芽数が多い特徴を有する「さきがけはくとう」の栽培に適用する。

[具体的データ]

表1 「さきがけはくとう」及び「清水白桃」の結果枝10cm当たりの葉芽数(2013)

品種	結果枝10cm当たりの葉芽数 ^z	
	長果枝	中果枝
さきがけはくとう	4.1 ** ^y	3.9 **
清水白桃	2.6	2.4

^z 満開15日後頃に調査、長果枝：30～60cm

中果枝：10～30cm

^y *t*-検定により、品種間に1%水準で有意差あり

表2 「さきがけはくとう」の摘果程度を変えた処理区の設定

処理区	予備摘果 (満開31日後)	仕上げ摘果 (満開42日後)
20葉芽	10葉芽/1果	20葉芽/1果
16葉芽 (早生慣行)	8葉芽/1果	16葉芽/1果

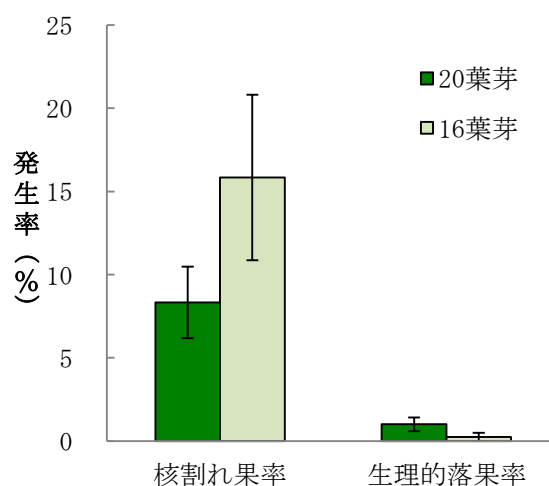


図1 「さきがけはくとう」の摘果程度と生理障害の発生率(2013)

注) 図中のバーは標準誤差 (n=4)

表3 「さきがけはくとう」における摘果程度の違いが葉果比、果実の大きさ及び糖度に及ぼす影響(2013)

処理区	葉果比 (枚/果)	果実重 (g)	果実等級の割合 ^z (%)		糖度 (° Brix)
			18玉以下	16玉以下	
20葉芽	134.3	236 ns ^y	69.2 ** ^x	39.2 **	12.1 ns
16葉芽	95.7	220	47.5	12.5	11.7

^z 4kg当たりの果実数、18玉以下は223g以上、16玉以下は250g以上の果実の割合

^y 果実重及び糖度は*t*-検定により、nsは処理区間に5%水準で有意差なし

^x 果実等級の割合は χ^2 検定により、**は1%水準で有意差あり

[その他]

研究課題名：モモのオリジナル品種の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2016年度

研究担当者：樋野友之、荒木有朋、藤井雄一郎

関連情報等：[日原ら\(2012\)岡山県農業研報、3：11-15](#)